

14 ドイツ

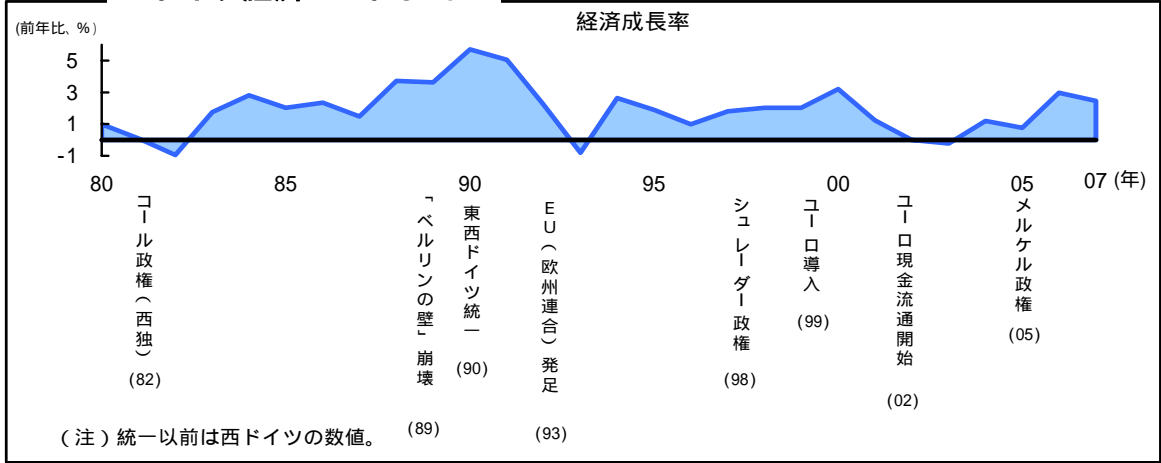
Federal Republic of Germany

<2007>

人口 8,231万人
(日本の約 2 / 3)
一人当たり GDP 35,364ドル
産業構造(GDP 構成比) 1次産業 0.9%
2次産業 30.1%
3次産業 69.0%

財政会計年度 1月～12月
為替制度 変動相場制
通貨 ユーロ
1米ドル=1.27ユーロ
面積 35.7万km² (日本とほぼ同じ)

<ドイツ経済のこれまで>



ドイツの主要経済指標

		97～06年	2007年	2008年見通し			2009年見通し			民間機関見通し
				5大研究所	欧州委員会	IMF	5大研究所	欧州委員会	IMF	
実質GDP	前年比%	1.5	2.5	1.8	1.7	1.7*	0.2	0.0	0.8*	実質GDP
個人消費	同上	1.0	0.4	0.4	0.5	1.0	0.4	0.2	1.1	2008年
固定投資	同上	1.1	4.3	3.8	4.3	5.2	1.4	1.7	0.5	平均
鉱工業生産	同上	2.1	5.9							最大
消費者物価	同上	1.4	2.3	2.8	3.0	2.9	2.3	2.1	1.4	最小
失業率	%	10.5	9.0	7.5	7.3		7.5	7.5		
経常収支	億ユーロ		1,808		1,889			1,978		2009年
(GDP比)	%		(7.5)		(7.5)	(7.3)		(7.7)	(6.8)	平均
財政収支	億ユーロ			38.0			4			最大
(GDP比、年度)	%		(0.2)	(0.2)	(0.0)	(0.3)	(0.0)	(0.2)	(0.8)	最小
政府債務残高	億ユーロ									
(GDP比、年度末)	%		(65.1)		64.3			63.2		(22社)

(備考) 1. ドイツ連邦統計庁、ドイツ連邦銀行より作成。5大研究所は、ドイツ5大研究所秋季合同経済見通し報告(2008年10月)、欧州委員会は“Economic Forecasts”(2008年11月)、IMFは“World Economic Outlook”(2008年10月)による。ただし、*印は“World Economic Outlook Update(08年11月)”による。

2. 固定投資は民間及び政府の合計。
3. 欧州委員会及びIMF見通しのうち、消費者物価は総合消費者物価指数(Harmonised index of consumer prices)の数値。
4. 財政収支、政府債務残高の実績は欧州委員会の数値。

<2008～09年の経済>

2008年の経済成長率は、1～3月期に暖冬による建設投資の上振れ等から大幅に伸びたが、4～6月期、7～9月期には前期比マイナス成長となり、景気後退入りが確認された。景気後退の主な要因は、(1)長期化する個人消費の低迷と(2)世界的な需要の減退による輸出の減少である。消費者が貯蓄性向を高めていることに加え、輸出依存度の高い(07年約47%)ドイツにとって世界的な需要減の影響は大きく、国内外からの受注の低迷を背景に、主力の製造業等で減産や人員削減の動きが広がっている。こうした中、政府は総額800億ユーロの資本注入等の金融危機対策に加え、企業の資金繰り支援等総額500億ユーロの経済対策を発表した(08年11月)。

08年の経済成長率は、年初の上振れはあるものの、年後半の急速な景気悪化により1%半ば程度と見込まれる(政府見通し1.7%、民間機関22社の平均1.4%(08年12月時点)。また、09年は内外需ともにさらに悪化するとみられることからゼロ近傍ないしマイナス成長になることが見込まれる(政府見通し0.2%、民間機関22社の平均0.9%(同上))。なお、輸出先の景気悪化が深刻化した場合、輸出や投資の減少を通じてさらに弱い成長となるリスクがある。